

「私の理想とする どこにもない 学習塾をめざして これからも」

少人数制学習塾 ENDEAVOR 代表 ^{すがはら}菅原 ^{ひろし}弘嗣



住 所: 加古川市加古川町木村712-4
T E L: 079-427-3759
営業内容: 学習塾

昨年、卒業生から嬉しい知らせが次々と入ってきた。「司法試験に現役合格した」「公立中学校の教師に決まった」「兵庫県の技術職公務員に決まった」「国家試験に現役合格して薬剤師になった」「名古屋大の大学院に進むことになった」「高専から大阪大学への編入試験に合格した」など、学生として真剣に頑張った結果だ。結果を出した一

人ひとり振り返ると、ほとんどが中学校入塾時の成績が中位程度。特に、司法試験合格の塾生は高校体育科生で高3の6月までスポーツ一筋の生活だった。薬剤師は工業高校卒生だ。中学時代不登校を克服して通学できるようになった塾生からも、指定校推薦で志望大学に合格との知らせがあった。こうした塾生には共通点がある。入塾後は気持ちを180度切り換え、挽回するために有言実行で長い時間集中して勉強していた。「エンデバーがあったから今日がある」と思いを伝えてもらったときは本当に嬉しい。でも塾ができることは限られている。あくまで塾はサポートしただけで本人の力がすべてだ。

2009年2月、30年間勤めた大企業を管理職特別退職制度で退職。妻を除く親族先輩・同僚など周囲の反対を押し切って起業した進学塾。当初は広告・宣伝しても申込者はたった2名。大雪の中、家族でチラシを一軒一軒のポストへ配布し、何とか中学3年生7名でスタートさせた。「どこの塾も真似ができないオリジナルに富んだ塾にする」との信念で私が文系科目を、大学浪人中の息子が理系科目を担当することにした。私が常に心がけているのは、サービス精神を持って塾生中心の授業をすることだ。「エンデバーしかできない授業」「エンデバーだからできる授業」は必ずある。それが「少数授業と一対一個別授業のセット」だ。高校生課程は「一対一個別授業」のみになっている。個別授業は希望科目を授業直前に予約でき、学校の教材や模擬試験問題の解説等塾生が決める形だ。そして講師が即座に丁寧な解説するという展開。静かで広い自習室を活用し、休憩時間や授業終了後に講師にたずねることもできる。また問題集を多く揃えてあり、コピー機も自由に使用できる。塾の仕事は成績を上げることではない。成績を上げるのはあくまで本人であり成績を上げられるよう各塾生が望む形の環境を提供することだ。一方「塾生を大切にしたいなら、まず講師を大切にすること」といった、サラリーマン時代に人事・総務畑で培った精神で講師に接している。

6歳で作曲を習い、青年時代には自作の曲が長野県の有線放送で1位になった。趣味の作曲を活かして音楽の授業も組み入れ、理科・社会の対面授業も多くしている。当初浪人中に授業を支えていた息子は現在小児科医として塾生と保護者の相談相手になっている。塾生を総合的に支える夢が今叶いつつある。